

## 平成 27 年度国有林モニター会議（現地見学）を開催

中部森林管理局では平成 27 年 9 月 10 日、木曽森林管理署管内において、国有林モニター会議（現地見学）を開催しました。

当日は、35 名の国有林モニターさんのうち 18 名の皆様が参加し、当局から総務企画部長、木曽森林管理署長等が案内しました。



（御岳山噴火に伴う緊急除石対策の現地説明）

次に、同じ王滝村内の氷ヶ瀬土場へ移動し、木曽森林管理署上田企画官より木曽森林管理署における素材販売事業の概要、木曽谷の山と森の歴史及び木材販売の流れについて説明するとともに、木曽ヒノキ丸太を見ながら品等の鑑定方法や、**（高国）**木曽ヒノキの販売方法等について紹介しました。

その後、場所を木曽町開田高原の新高国有林に移し、カラマツ人工林の素材生産事業地を見学しました。現地では、北沢主任整備官より事業内容を説明した後、事業を請負っている木曽協和産業（株）による伐倒、プロセッサによる造材作業を見学しました。

この現地見学会では、国有林モニターの皆様から「治山ダムの目的が分かった」、「御嶽山噴火災害等大変厳しい現場での復旧工事に感心した」また、土場では「木材の見方が分かった」、「木曽ヒノキの育成が必要である」、素材生産現場では「プロセッサによる造材作業が見られて良かった」、「機械化により若い林業労働者が増えることを期待する」といった感想や意見が寄せられました。

中部森林管理局では、モニターの皆様から今回いただいた貴重なご意見を、今後の国有林野の管理経営に活かしていきたいと考えています。

引き続き、モニターの皆様のご理解とご協力をお願いします。

まず、最初に、木曽郡王滝村の御岳国有林の濁川の現場に向かいました。現地では、昨年 9 月の御嶽山噴火に伴う土石流対策として設置した土石流センサー・監視カメラや緊急除石対策工事について、また、現在実施中の復旧治山工事の概要や昭和 59 年の長野県西部地震災害の復旧等の取り組みについて、木曽森林管理署梅田総括治山技術官より説明を行ないました。



（木曽ヒノキについて説明（氷ヶ瀬土場））



（プロセッサによる造材作業）